

2024年5月11日(土) 慶應義塾大学三田キャンパス

日本軍縮学会 2024年度研究大会 部会「新興技術と軍備管理・軍縮」

「新興技術が社会に及ぼす影響について」

神崎宣次 (南山大学)

前提：技術の性質によって、その社会的影響も異なる。

たとえば人工知能の場合、Disinformation の生成・拡散や、ロジスティックス、気象予測などにも影響を与えている。

応用倫理学：特に技術に関連する分野

- 20世紀後半から：生命倫理学、情報倫理学... ロボット・AI 倫理学... 気候変動の倫理
 - 戦争倫理学 (の一部) も
- プロジェクト例：情報倫理の構築(FINE)プロジェクト(1998-2003)¹
- 専門職倫理としての側面：医療従事者、研究者、技術者、軍人...
- XXX してはダメという禁止だけの議論ではない。賛否両面を検討。ただし何がトレードオフに乗せられるべきではないかは重要(だが議論が分かれる)論点。

ELSI/RRI の導入・普及²

- アシロマ会議 (1975) -> Future of Life Institute 「アシロマ AI 原則」(2017) など
- RISTEX の HITE 領域 (2019-2024)、RInCA 領域 (2020-) など
 - 参考：RInCA のロジックモデル³
- 責任あるイノベーションの4つの次元 (Stilgoe ほか, 2013)⁴：予期 anticipation、反省性 reflexivity、応答性 responsiveness、包摂 inclusion⁵
- 「技術の進歩に倫理や法が追いつかない」という言説
 - 実際には ELSI の議論は進んでいるけれど、技術の方が全然普及していない場合も
- 「技術の進歩のブレーキではなく、ハンドルとしての倫理や法」という言説
 - 軍事技術あるいは軍縮の文脈でこれをどう考えるか

¹ <https://www.jsps.go.jp/file/storage/general/j-rftf/projectpdf/i/98i00704.pdf>

² 標葉隆馬 2020. 『責任ある科学技術ガバナンス概論』ナカニシヤ出版. 10章, 11章.

³ <https://www.jst.go.jp/ristex/rinca/files/rinca-logicmodel-2021.pdf>

⁴ <https://doi.org/10.1016/j.respol.2013.05.008>

⁵ 平川秀幸 2017. 「欧州における「責任ある研究・イノベーション (RRI)」の政策および研究の動向」. http://www.lit.kobe-u.ac.jp/mst/pdf/15th_01.pdf の 35 枚目から 39 枚目までも参照のこと、

社会的受容性 social acceptance

- 「醸成」されるべきものとして語られることもある
- 単独では不十分で、倫理的受容可能性 ethical acceptability と相互補完されなければならない⁶

倫理的影響評価

- 概略的には次のような手順を含む
- 研究・開発組織内での分析、専門家を招集しての分析、(潜在的ステークホルダーを特定した後に) ステークホルダー参加による分析

デュアルユース

- たとえば防衛装備庁「令和6年度 安全保障技術研究推進制度」の公募資料⁷を見ても、軍民の単純な分離は無理
 - 「また、本制度は基礎研究を対象としていることから、設定した研究テーマは、民生分野においても大いに発展が期待される研究分野であると認識しています。民間において激しい技術的競争に晒されることで、技術の進展が加速するということも考えられますので、本制度による研究成果は積極的に公表し、更なる技術的発展を遂げていただきたいと思います。」(p. 42)
- 参考：デュアルユース研究の評価への市民参加については≒の6節を参照のこと
 - 片岡・小林・鹿野・河村 2022, 「デュアルユース研究の倫理学：費用便益分析を超えて」, ELSI NOTE 19, 大阪大学社会技術共創研究センター.⁸

学会による取り組み：自律的な専門職組織としての社会的責任

例 人工知能学会倫理委員会

- 「倫理指針」(2017) およびそこに至る検討と全国大会における公開討論⁹
 - 6. (誠実な振る舞い)人工知能学会会員は、人工知能が社会へ与える影響が大きいことを認識し、社会に対して誠実に信頼されるように振る舞う。人工知能学会会員は専門家として虚偽や不明瞭な主張を行わず、研究開発を行った人工知能の技術的限界や問題点について科学的に真摯に説明を行う。

⁶ Behnam Taebi 2015. Good governance of risky technology: Bridging the acceptance-acceptability-gap.

<https://www.icrp.org/docs/7/4.%20Bridging%20the%20gap%20between%20public%20acceptance%20and%20ethical%20acceptability%20-Taebi.pdf>

⁷ https://www.mod.go.jp/atla/funding/koubo/r06/r06koubo_besshi1.pdf

⁸ https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/al/88675/ELSI_NOTE_19.pdf

⁹ https://www.ai-gakkai.or.jp/ai-elsi/report/ethical_guidelines

- 7. (社会に対する責任)人工知能学会会員は、研究開発を行った人工知能がもたらす結果について検証し、潜在的な危険性については社会に対して警鐘を鳴らさなければならない。人工知能学会会員は意図に反して研究開発が他者に危害を加える用途に利用される可能性があることを認識し、悪用されることを防止する措置を講じるように努める。また、同時に人工知能が悪用されることを発見した者や告発した者が不利益を被るようなことがないように努める。
- 「人工知能学会としての大規模生成モデルに対してのメッセージ」¹⁰ (2023年4月25日)
- 安全保障についての企画セッション
 - 2018年度人工知能学会全国大会 企画セッション「AIに関わる安全保障技術を巡る世界の潮流」(2018/6/5)¹¹
 - 2024年度人工知能学会全国大会 企画セッション「AIと安全保障」(2024/5/28開催予定)

以上のような主に研究者や開発者を対象とした既存の取り組みが軍事関連技術のガバナンスにどれだけ実質的に寄与できるかは、心許ないというのが正直なところ。今回このような機会をいただいたので、軍縮の専門家のみなさまから、欠けている視点や要素を明確にする示唆をいただければと考えております。

¹⁰ <https://www.ai-gakkai.or.jp/ai-elsi/archives/info/人工知能学会としての大規模生成モデルに対して>

¹¹ <https://www.ai-gakkai.or.jp/ai-elsi/archives/725>